



大型連休まであと1ヶ月。なんとなく落ち着かないという人もおられるかもしれませんね。5月1日から新しい元号に…いったい何という元号になるのでしょうか!?

基本的に元号に使われる漢字は2文字と言われていたのですが、これまでに日本で使われた漢字はわずか72文字。我々の生活と元号…密接なつながりがありそうです。

元号の歴史

永 元 天 治 応

元号とは、特定の年代につけられる称号のことで「年号」と呼ばれることもあります。日本の最初の元号は飛鳥時代の「大化」(645年)で、それから「平成」まで全部で247の元号があります。昔は特に決まりがなく、占いや天変地異などの理由で改元されていましたが、「明治」の改元で「一世一元」となりました。天皇陛下が平成31年4月30日に「譲位」されるため、「平成」が改元されます。次は、どんな元号になるのか予想してみた方はいらっしゃいますか?

長〜い元号ベスト5

- 1位: 昭和 (62年 14日)
 - 2位: 明治 (44年 187日)
 - 3位: 応永 (35年)
 - 4位: 平成 (30年 113日)
 - 5位: 延暦 (25年)
- ※最短記録: 暦仁 (2カ月半)

最多漢字ベスト5

- 1位: 永 (29回) 永保、安永
- 2位: 元 (27回) 元慶、元禄
- 天 (27回) 天平、天長
- 4位: 治 (21回) 大治、宝治
- 5位: 応 (20回) 嘉応、応徳

新元号予想ベスト5

- 1位: 安久
- 2位: 安永
- 3位: 安始
- 4位: 栄安
- 5位: 安明

「安」が
人気!

元号がついた地名

元号がついた地名は、明治町、大正町、昭和町、平成町など全国にたくさんあります。大正区、昭林区も有名ですね。自然災害の後に命名した山もあり、江戸時代の宝永大噴火で富士山の南東斜面に出来た宝永山、北海道の明治新山や昭和新山、長崎県島原半島の平成新山などがあります。また、安政橋や天保橋など橋の名前になっていたり、平成駅、昭和駅、大正駅などもあります。

新元号がついた地名や駅が登場する日も近いかもしれませんね。

元号がついたお寺で有名なのは比叡山延暦寺・名前だけは知っているという人も多いのではないのでしょうか。鎌倉の建長寺、京都の仁和寺や「風神雷神図」で有名な京都の建仁寺。飛鳥時代からざっと数十はありそうです。芭蕉の句にある“花の雲 鐘は上野か浅草か”の上野とは寛永寺のことです。

- • なぜか神社には少ないようです。



幕末の元号

幕末、孝明天皇の御代には、国を揺るがす大事件が次々と起こり、改元が繰り返されました。

- 嘉永 (1848-1855) • • ペリーの黒船来航
- 安政 (1855-1860) • • 安政の大獄/安政江戸地震 • 飢饉
- 万延 (1860-1861) • • 桜田門外の変
- 文久 (1861-1864) • • 佃煮誕生/生麦事件
- 元治 (1864-1865) • • 池田屋事件/禁門の変
- 慶応 (1865-1868) • • ええじゃないか/戊辰戦争

慶応の次は、もう明治。

ぐっと近代に近づいて来ます!



元号は日本だけのもの

元号制度は、紀元前140年に中国・前漢で生まれた「建元」から始まりました。日本以外にも、西夏、朝鮮三国、渤海などが元号を取り入れ、ベトナムでは13世紀頃より第二次大戦後まで独自の元号を使っていました。しかし、現在でも元号が使われているのは世界で日本だけです。

戦前、元号を決めるのは天皇でしたが、戦後「元号法」が制定され、内閣総理大臣が決めることになりました。



今月のお題

http と https の違いを知っていますか？

みなさんは、お気づきでしょうか。以前まで、<http://www.widesoft.co.jp> だったワイド HP の URL が <https://www.widesoft.co.jp> に変わっていることに。何が違うのかって？「http」に「S」がつかました！実は、この「S」があるとないとじゃ大違いなのです。

Web ブラウザは異世界のドアを開けてくれる窓口

Web ページを見る時には、GoogleChrome や IE、safari、Firefox などの Web ブラウザと呼ばれるソフトウェアが必要です。みなさんも毎日、使っているのではないのでしょうか。ブラウザは世界中の情報が集まる「WWW という異世界」とやりとりをするための窓口です。WWW は異世界なので、お互いに言語が理解できません。そのため、ブラウザが翻訳スキルを使って異世界のドアを開けてくれます。そのドアをあける際の合図が「http」です。



「http」は WEB ページを呼び出す呪文



http は「Hyper Text Transfer Protocol (ハイパー・テキスト・トランスファー・プロトコル)」の略。

- ①HyperText (ハイパーテキスト) は、直訳すると「超文章」。
(文章の中のリンクから違う文章へ移動するのですから、確かに文章を超えた文章ですね。)
- ②Transfer (トランスファー) は、「乗り換え」です。http では転送を意味します。
- ③Protocol (プロトコル) は、「約束ごと/ルール」で“情報をやりとりするときに必要なルール”を意味します。

つまり、「http」は「今からハイパーなテキストをインターネットで転送するルールを使って、やりとりを始めるよ！」という意味で、この伝達手段のことをスキームと言います。このスキームを受けたブラウザは要求を理解し、異世界と指定のページの情報のやりとりをスタートします。

「http」は直球

私たちは http を使って WWW という異世界と、情報のキャッチボールを繰り返し、ブラウザを通して次々に違うページを見ています。とっても優秀な http キャッチボールですが、大きな欠点があります。それは、**http を使って投げるボール(情報)があまりにも直球だということ**。ちょっと特訓した人には内容を解読することが可能ぐらい、まる見えなのです。普通の WEB ページを見るだけならまだしも、会員専用サイトのログイン情報や個人情報、クレジットカードを入力する場合、第三者から解読の可能性があるので大問題ですね。ここで、「https」の登場です。



「https」は魔球

https の「s」は Secure (セキュア) の「S」。セキュアとは「安全な」とか「危険のない」という意味です。ブラウザと異世界(www)との直球キャッチボールを暗号化し、第三者から見ると意味不明な魔球を投げている状態へ変化させます。**解読させない形式が https なのです。**

※Google では、https の URL を検索結果に優先表示されるようになっていて、http のサイトに対して警告表示を強調していくという公式アナウンスを出しています。また 2018 年 10 月リリースの chrome70 からは、http 通信でフォームを送信するページの「保護されていない通信」ラベルが、文字を入力した瞬間、赤色に反転するようになっています。

セキュアしてますか？

今、直球なのか魔球なのかは、URL を見るだけですぐわかります。ブラウザ上部にあるアドレスバーで URL の始まりが「https」なら OK！魔球です。緑の鍵のアイコンもついているので、わかりやすいかと思えます。

特に注意が必要なのは、個人情報の入力を求められるお問い合わせフォームや、購入をするためクレジットカード番号の入力画面です。https ではないページは、第三者に解読される可能性があることを覚えておきましょう。

